

# 防災特集

令和元年東日本台風の被害からもうすぐ1年。あの日私たちの町に降った大雨はたった1日で多くの甚大な被害をもたらしました。あの日の教訓を忘れず、いつ起こるか分からない災害を少しでも防ぐため私たちにできることは――

## 令

令和元年10月12日、観測史上最大級といわれた令和元年東日本台風は各所で大きな被害をもたらしました。川俣町でも積算雨量301.5mm、浸水被害92件、住宅関連被災616件など多くの被害を被りました。

近年、全国で多発する異常気象。今年も熊本をはじめとする九州地方や山形県などで河川が氾濫するほどの大雨が降っています。今、日本では、災害がいつどこで起こってもおかしくない状況になっているのです。

そのような災害に備え、事前に準備をしておくことは災害発生時、自分や大切な人の命を守ることに繋がります。

今回の特集では、災害に対して今からできる備えと災害発生時の行動についてお知らせします。

※台風の去った翌日

佐藤好信さん（小島） 宅から撮影

9月1日は「防災の日」

「防災の日」は、国や市町村そして国民の一人ひとりが台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようという目的で閣議了解された日です。

「防災」には「自助・共助・公助」がありますが昨年の台風災害のような場合、消防署や役場の「公助」は限定的にしか機能しないうえ、災害が深刻であればあるほど「公

助」の機能は低下してしまいます。よって、皆さん一人ひとりができる「自分の命は自分で守る」という「自助」と、共に助け合う「共助」が重要になってきます。

有事に備え、非常時持出品の準備や指定避難場所の確認、避難準備や避難指示があった場合に早めの行動をとるなど、一人ひとりができることを実践していきましょう。さらに、地域コミュニティを十分に生かし、「ご近所」で互いに声を掛け合いながら「互近助パワー」で「災害時の死者ゼロ」を目指す指して命を守る行動をとりましょう。

# 「防災の基本は ぎょうじょ きんじょ “共助”から“互近助”へ」



伊達地方消防組合  
中央消防署南分署 主幹兼分署長  
消防指令 高橋 正明 さん  
まさあき

## 災害Q&A

Q 防災って何をすればいいの？

A まずは、身近で  
起こりうる災害を  
確認しましょう

まずは自分の住む地域で災害の起こりやすい場所、起こりやすい災害を確認することが大切です。大雨、地震、台風など災害の種類と災害に伴うリスクは異なる場合があります。家族で「川俣町防災マップ」に記載されている各災害への対策を確認しておきましょう。

Q どこに避難すればいいの？

A 家族で  
「防災さんぽ」  
をしてみましょう

実際に災害が起こったことを想定して避難場所までのルートや避難場所を確認する「防災さんぽ」を家族で行いましょう。

「川俣町防災マップ」を参考にして避難所の場所と避難までにどれくらいの時間がかかるのか、途中に危険な場所はないかなどを1人ひとりが事前に把握しておきましょう。

複数のルートで避難できるように数回「防災さんぽ」を行うとより選択肢が増え効果的です。

